

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-70

学校名・団体名	亀山市立川崎小学校
HPアドレス	http://www.kameyama-mie.jp/~kblog/kawasaki/
コ ー ス	学校支援
活動・研究 テ ー マ	地域の中で、みんなで生き生きと学ぶ川崎っ子の育成

〈活動・研究の意義、目的〉

校区は、亀山市の北部に位置し、安楽川・御弊川・八島川の流域に発達した農村地帯と、能褒野地区、名越地区、田村・東野地区を中心とした新興住宅地で形成されている。近年、学校周辺の畑作地帯を中心に、住宅やアパート、マンションが建設され、新興住宅地（能褒野地区・名越地区）では人口や児童数が増加している。

また、川崎地区まちづくり協議会を中心とした地域の人々の連帯感は強い。地域の人々同士だけでなく、学校と地域の結びつきも強く、地域ぐるみで様々な学校支援がなされている。特に、地域による子どもの安全を見守る会、フレンドリークラブにおける指導協力、学校園（フレンドリー農園）や花壇の整備など、その内容も多方面にわたる。さらに、学習ボランティア（13名）さんや図書館ボランティア（4名）さんの積極的な協力に加え、放課後子ども教室（川崎フレンズ）は年間を通して多彩な活動を展開していただいている。

これら一連の取組を通して、今年度からは市教育委員会より2期目のコミュニティ・スクール指定を受けている。学校運営協議会を中心に、地域・保護者・学校がより連携を密にし、互いに責任ある立場で学校経営に参画していく体制の整備・充実を図っている。また、校舎建築に関わって、地域活動室の有効活用等についても熱心に議論されているところである。

このような背景のある本校で、今年度は、「自助（家庭）・共助（地域社会）・公助（学校）の強い連携により、共同的な学びを推進すること」を重点目標におき、「子どもたちや教職員による川崎地域学習への取組」を行動計画の中心に据えた。

「子どもや教職員への地域学習」として、以下のような取り組みを行った。

1 フレンドリー農園づくり【通年】

今年は校舎改築のため昨年度まで利用していたフレンドリー農園（学習園）が使えなくなってしまった。そこで地域の方が子どもたちのために新しいフレンドリー農園を作ってくださいました。草でいっぱいのところを重機で掘り起こし、良質な土を運んで肥料までまいていただき、すばらしい学習園になった。子どもたちは、そこで、トウモロコシやスイカ、さつまいも、ダイコン等を大事に育てている。



また、花壇についても地域の方の協力を得て、運動場に移設し、本校児童はもちろん、川崎地区の多くの人々に親しまれ、校内緑化運動や自然体験学習をすすめる基点になっている。育てた花は地域の方にもお礼の気持ちで届けている。



2 先輩に学ぶ【1学期】

3年生は、岩森地区のお茶づくり名人から教わりながら、茶摘み体験をさせていただきました。

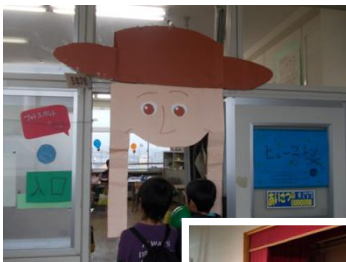
5年生は、地元出身の日本画家や海上自衛隊（砕氷艦しらせ乗組員）から体験談を聞き、その仕事を選んだきっかけや苦勞、やりがいを知ることができた。

子どもたちは、地域の先輩方から様々な技や仕事の厳しさを学ぶことで、将来への目標や希望をもつ良い機会となった。



3 川崎ふれあいフェスタ【11月】

11月19日、土曜授業において、地域や保護者とともに「川崎ふれあいフェスタ」を実施した。5,6年生が企画したゲームやお化け屋敷のブース、地域や保護者の方が運営した焼きそばやもちつきのコーナーは、多くの人でにぎわった。また、午後からは、児童によるステージ発表があり、歌や跳び箱の技等の出し物を参加者に披露した。これまでは地域主催のフェスタであったが、今年度は学校行事に位置付けたことで、学校・地域・家庭が協同して取り組み、絆を深める良い機会となった。また、子どもたちが地域の方と積極的に関わることで、地域の一人としての意識を育むことができた。



4 各学年の取組より

【 1年生 】

(生活) さつまいもクッキング (10月31日)

約20人の地域や保護者の方が、1年生と一緒にサツマイモ料理を作った。フレンドリー農園で6年生と一緒に苗を植えたサツマイモが大きく育ち、この日は、スイートポテトやモンブラン、オレンジ焼きなどさまざまなサツマイモ料理を地域の方と楽しむことができた。



【 2年生 】

(生活) まちたんけん (9~11月)

校区にある工場やお店の探検をした。学校近くにある喫茶店の人にインタビューをしたり、工場であらそくのできる工程を見学したりして、地域について学習を深めることができた。



【 3年生 】

(総合的な学習) 日野菜大根を育てよう (2~3学期)

地域の野菜作り名人に、日野菜の作り方を教えていただき、フレンドリー農園で育てた。収穫した日野菜大根は日野菜漬けの漬物にする過程まで継続的に学習した。

【 4年生 】

(総合的な学習) 地元消防団の方の話を聞こう (11月18日)

亀山市消防署の施設見学と並行して、身近なところで自分たちの安全を守るために活動している消防団の仕事について学習した。子どもたちは実際に体験も交えながら仕事の大変さに気づくことができた。



【 5年生 】

(総合的な学習) (7月)

地域の方から、川崎地区の農業について話を聞き、校区の特徴的な土壌である「くろぼく」を活かした農業について身近に学ぶことができた。くろぼくの土で育てているフレンドリー農園の活かし方についても知ることができた。



【 6年生 】

(社会) 古墳時代 能褒野神社フィールドワーク【4月】

(総合的な学習) 歴史・遺産を探ろう 校区内フィールドワーク【6月】

(社会) 室町・安土桃山時代 峯城フィールドワーク【7月】

(平和学習) 戦争の体験談を聞く。【8月】

川崎小学校校区にある歴史や文化遺産について、実際に歩いて観察したり地域の方から話を聞いたりして、郷土についての学習を深めた。また、8月の登校日には、グループに分かれて地域の方から戦争の体験談を聞くことができた。(教職員も、7~8月に同じようなコースで、地域の方から研修を受けた。)



【 成果 】

- ・地域とつながり、地域のすばらしさを学び、将来誇りをもって地域を担っていく子どもたちの育成につながった。
- ・地域の方々と花や野菜を育てることによって、生き物を大切にすることや自然と親しむ思いを育てることができた。
- ・川崎地区の歴史や文化遺産について学習することで、郷土への誇りや愛着を育むことができた。また、地域の行事に参加したり、「川崎ふれあいフェスタ」(11月)を地域と協同して取り組んだりして、地域とのつながりを深めることができた。
- ・お茶づくり名人や日本画家等、地域の達人から話を聞いたり、技を教わったりすることで、将来に目標をもちその実現に向けて努力しようとする態度を育てることができた。
- ・地域の方が、学校と関わることでやりがいを感じ、地域全体の活性化につなげることができた。まちづくり協議会の方々が中心になって、地域学習に関わる人材を広く呼びかけてくれた。さまざまな立場から子ども達の学習に関わることで、地域の方々にも積極的に子ども達と一緒に活動しようとする活気が見られるようになった。